

# モモせん孔細菌病について

R2. 5

長野農業農村支援センター

## (1) 発生時期

開花期から6月頃になると枝に病斑が発生する。葉では5月上旬頃から始まり、梅雨に発生盛期となり、夏期に停滞する。9月以降に発生することもある。果実への被害は6月下旬から8月頃である。

## (2) 生態

細菌の感染によって発生する病害である。また、風あたりが強い場所で多発しやすい。

新梢の芽基部内で病原菌が潜伏越冬し、開花期から6月頃になると、枝に「春型枝病斑」と呼ばれる病斑が生じ、一次伝染源となる。ここで繁殖した病原菌が雨風などで分散し、葉や果実に伝染する。その後、葉などの病斑から二次感染を起こす。

## (3) 被害の様子

2年生枝の芽基部に発生する「春型枝病斑」は、初期は水浸状で黒褐色から黒色である。その後、乾燥してやや陥没した病斑となり、病斑部に亀裂を生じることもある。

葉では、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。多発すると早期落葉する。

果実では褐色から黒褐色、数から10mm程度で円形から不整形で亀裂を伴い、果肉に食い込んだ病斑を生じる。

## (4) 防除のポイント（農薬だけでは防ぎきれない）

### ① 春型枝病斑の剪除（耕種的防除）

葉・果実に病斑が見られたら、上部、又は周辺部に必ず春型枝病斑が存在する。

→ 春型枝病斑は見つけ次第切除し処分する。

### ② 薬剤防除

生育期間を通しての防除が必要である。果実感染は梅雨明けまで続く。収穫後の防除も不可欠である。

果実感染の多発が予想される場合は、薬剤防除後、早めに袋かけを行う。

### ③ 地域全体で取り組む

1つの園地で完璧に病斑を切除しても隣のほ場で蔓延していると伝染してしまうので、産地を守るために地域全体で枝の切除を行う。

### ④ 風対策

設置可能であれば、防風ネットなどを設置して風による蔓延を防ぐ。

## (5) 品種間差

品種によって強弱がある。弱い品種は「黄金桃」、「あかつき」、「川中島白桃」など

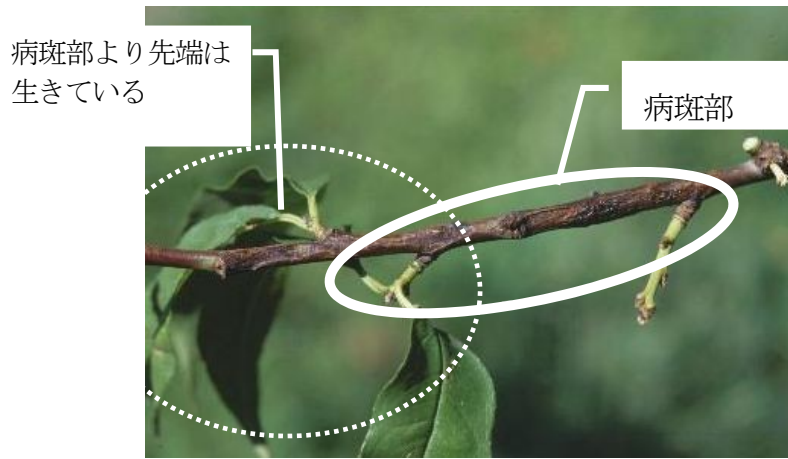
## (6) 春型枝病斑の特徴は？

① 枝病斑は開花期頃から現れ、芽基部がやや陥没し、薄い黒褐色を呈する。

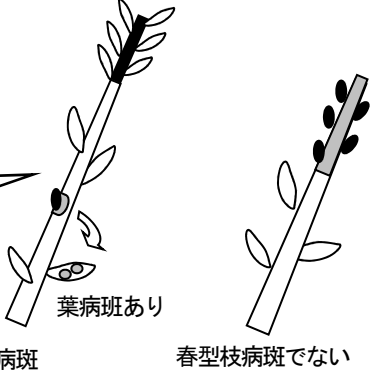
② 5月中下旬頃には黒色の典型的な病斑となる。枝病斑は芽基部に発生し、陥没してひび割れる。ヤニを噴出することもある。

### <見分け方のポイント>

- ・ 2年生枝の芽基部に発生する。
- ・ 枝病斑より先が枯死することは少ない。
- ・ 枝病斑の検索にあたっては、葉の被害が多い部分の上部を中心に行う
- ・ 葉の病徴は褐色、不正形で細かい病斑を多数形成する。



感染している部位の芽は開花・発芽しなかったり、開花しても直ぐに枯れる。



(7) 果実及び葉の病徴



葉の被害  
5月頃からみられ、病斑部は褐色、不整形で部分的にせん孔する



果実の被害  
褐色の微小な病斑を生じ、果実の生長に伴い深い亀裂のある病斑になる。

写真提供：長野県病害虫防除所  
長野県果樹試験場